

連載74

内海善雄の  
(ITU前事務総局長)

# やぶ睨み 「ネット社会」論

## 憂うべきは技術の流出ではなく 技術開発力の低下

また、前時代の神話しか語れないこのような識者がたくさんいることは驚きだ。日本社会の認識が現実とあまりにもかけ離れていて、これでは経済の方向性を見誤るのではないだろうか。

### 海外に流出してはならない技術

例えば、防衛上絶対的に優位な軍事技術を日本が持っていたとする。日本国の安全保障のためには、どんな犠牲を払ってもこの技術を海外に流出させてはならないことは誰でも理解できる。

シャープがそのような軍事技術を持っていただろうか。もしそうだとすれば、防衛省あたりが今回の支援問題を黙って見ていたとしたら、これは極めて怠慢なことになる。

次に、民生品の分野で独占的に利益を享受できるような特別な技術について考えてみよう。

シャープには、このような技術がたくさんあることが想定される。しかし、その特殊な技術を独占して世界市場で利益を享受しておれば、そもそも経営危機にはなりえない。例えば、話題になっている液晶技術も、かつて

は独占して利益を生むものであったが、他国の企業が同様の商品を生産するに及んで競争に負けたのではないか。  
いかに優れた技術といえども、やがて追従され、陳腐化するのである。はたして現在のシャープに独占的に利益を生み出せる技術があるのだろうか？

この疑問に対する解答は、おそらく、「独占利益を生み出す可能性のある技術はあるが、経営体制が悪くて事業化できないのだ」ということだろう。このような技術は、経営体制によっては、大きな利益を生む金の卵であるが、経営が破綻するとなんの価値もない。そこで、破綻の前に他企業に売却することになるだろう。その時、売却先が海外企業であればまさに技術とビジネス・チャンスが海外に流出することになる。

もし、シャープに他企業に売れるような技術がたくさんあるのなら、そこはぜひ、なんとか国内企業に売却してもらいたいものである。ところが、一連の経緯の中で、シャープの開発した技術を買って世界市場で儲けたいという申し出の話は、国内はもとより、海外からも一度も報道されなかったと思う。

シャープの経営者は、自らをいまだに技術開発力のある一流企業だと思いつ込んでいてではないか。本来なら、薬をもすがる思いで支援をお願いし、「潜在的な技術開発力」を生かせなかった無能力の責任を取り、一切を新しい経営者にお願ひすることではないか。

今、日本のICT企業の技術開発力は急速に落ちている。理工系嫌いの若者、横並びで獨創性を好まぬ企業風土、資金力の低下、先見性を欠き、リスクも取れないサラリーマン経営者など、どの点をとっても世界レベルに満たなくなっている。そんな中で科学技術予算はOECD先進諸国で最下位である。  
ところが一部の識者は「日本の技術が海外に流出する」と幻想に基づいた全く的外れの警告を出して、国民に「技術大国日本」の誤ったイメージを植え付けている。識者が心配しなければならないことは、どうやって日本の技術開発力を先進諸国並みに高めるかというのではないだろうか。

### 金の卵を産む鶏

問題の本質は、シャープが実際に保有している技術ではなく、将来有望な技術を生み出す力、すなわち技術開発力であると思う。いわば金の卵を産み出す鶏である。シャープは、電卓やザウルス、液晶のような、極めて魅力ある商品を開発してきた歴史がある。

技術開発力は、優秀な人材、企業が持っている基礎的な技術、組織風土、資金力、先を見越せる経営者などが、一体となって形成されると思うが、現在のシャープには、資金力と経営力が徹底的に欠如していて、とても技術開発力があるとはいえない。しかし、まだまだ優秀な人材や新しいものを生み出す企業風土は残っている。シャープの「潜在的な



日本の現状を教えてくれている

### 国内経済活動の確保

一方、経営破綻をすると当然、技術開発力は雲散霧消する。問題は、十分な資金を投入して経営破綻を阻止し、技術開発力を高め、同時に開発された技術を活用できる体制を構築し、どれだけ国内の雇用や関連企業を維持するかということであり、解答はシンプルである。必要なのは、十分な援助資金と潜在能力を活用できる新しい経営体制を創る理念と経験・ノウハウである。国内資本か、海外資本かなどは、どうでもよいことだ。コンセンサスを得るため延々と議論するなど、アホらしくて話に



内海善雄(うつみ よしお)

1942年香川県高松市生まれ。東大法学部卒。東芝を経て66年郵政省(現総務省)入省。電気通信の自由化など、通信放送政策を長く担当。98年国際電気通信連合(ITU)事務総局長就任。現在は一般財団法人「協和」理事。IEEE名誉会員。